

NEWSLETTER

No.66

3 April 2017

・教室をめぐる動き	・・・ 1
・2017年度地理学教室行事予定	・・・ 1
・文学部創設50周年記念事業が開催されました	・・・ 2
・地理学教室創設50周年記念事業が開催されました	・・・ 4
・国士舘大学地理学会冬季巡検(秩父・飯能巡検)報告	・・・ 11
・地理実習室および地理情報処理室(世田谷10号館)の利用について	・・・ 13
・地理学教室・購入図書資料リスト(2016年度)	・・・ 14
・地理学教室・購入主要備品リスト(2016年度)	・・・ 16
・製本・PDF化して保存される卒業論文主題(2016年度)	・・・ 16
・2017年3月卒業生の進路・就職先	・・・ 17
・就職活動体験談(2016年度)	・・・ 17
・2016年度における教員の研究活動	・・・ 25

【教室をめぐる動き】

◎「専攻」から「コース」へ

2017年度の新入生からは、「史学地理学科 地理・環境コース」の学生となります。一方、2016年度以前の入学生については、入学時の便覧にあるとおり、所属は「地理・環境専攻」です。ただし、今後、学部生全体のまとまりについては、一般に「地理・環境コース」という呼称が用いられることとなります。なお、学部生のほか大学院生や教員も含めたまとまりは、これまでどおり「地理学教室」と呼ばれます。

◎2017年度を迎えるにあたり、次のような先生方の動きがあります。

<非常勤講師の退任>

三富 正隆 先生「アジアの環境と人間生活」「地理学A」「地理学B」その他を担当

<非常勤講師の新任>

任 海 先生「地理学A」「地理学B」を担当

※今年度の専攻(コース)主任・学年担当・大学院幹事は以下の各先生です。

専攻(コース)主任 磯谷 達宏 1年担当 岡島 建 2年担当 宮地 忠幸
3年担当 加藤 幸治 4年担当 内田 順文

大学院幹事 内田 順文

【2017年度教室行事予定】

4月 3日～	全学年オリエンテーション
5月 24日～25日	地理学野外実習A(1年生地理学野外実習)
6月 10日	9月卒業・卒業論文提出締切(15:00)
6月 10日	国士舘大学地理学会(総会・講演会・懇親会)
8月 30日～31日, 9月4日～6日	測量実習3(集中講義)
9月 1日～2日, 15日～16日	日本の土壌環境(集中講義)
10月 3日～4日	地理学野外実習B(2年生地理学野外実習)
10月 23日～26日	地理学野外実習C(3年生地理学野外実習)
12月 11日	卒業論文提出締切(15:00)
12月 16日	国士舘大学地理学会(研究発表会・講演会・懇親会)
2月 7日～9日	卒業論文公開口頭試験
3月 19日	学位記授与式
3月 20日	卒業式

【文学部創設 50 周年記念事業が開催されました】

1966 年 4 月に創設された国士舘大学文学部は、2016 年にちょうど満 50 年を迎えました。半世紀 50 年という大きな節目を控え、学生の目にはあまり見えなかったかもしれませんが、文学部では 1 年以上前から「文学部創設 50 周年記念事業」の計画を進めていました。その主な内容は、記念式典、記念シンポジウムの開催、記念誌の発行、記念ブックレットの発行、記念品の配布、です（写真 4 参照）。

その集約点ともいえる記念式典と記念シンポジウムが、2016 年 10 月 29 日（土）13:00 より、中央図書館地下多目的ホールで開催されました（写真 1）。国歌斉唱によって厳かに始まった式典は、文学部長長谷川先生の式辞から、理事長・学長式辞、在学生代表（日本文学・文化専攻）のことばとつづき、初等教育専攻有志による歌曲合唱、さいごに全員による館歌斉唱で、つつがなく終了しました。暫時休憩のあと 14:15 から「国士舘大学での学びと今のわたし」というテーマで記念シンポジウムが開催され（写真 2）、各専攻のOB・OGが壇上に立ち、在学生に向かって語るという形式で発表およびディスカッションが行われました。地理・環境専攻からは、1990 年度の卒業生で現在はバリノサーヴェイ株式会社調査研究部におられる高橋 敦（長谷川ゼミ出身）さんが代表として登壇し、大学時代の卒論の思い出や、木製品の科学分析を中心とした現在の仕事との関連などについて、（とても若い長谷川先生などの）貴重な映像を交えて発表されました（写真 3-a, b）。

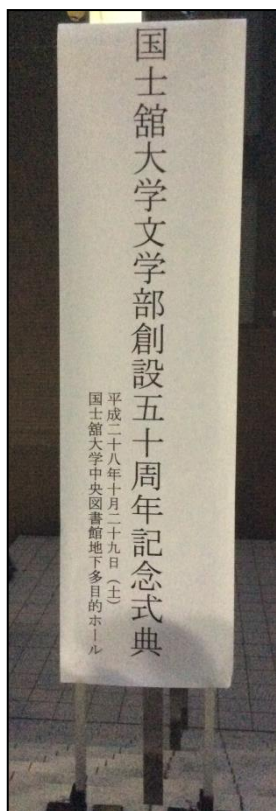


写真 1（左）．中央図書館の多目的ホールで開催された文学部創設 50 周年記念式典
写真 2（上）．記念シンポジウム「国士舘大学での学びと今のわたし」



写真 3-a・b. 卒業生の高橋敦さんによる発表
…在学生への熱いメッセージが送られました

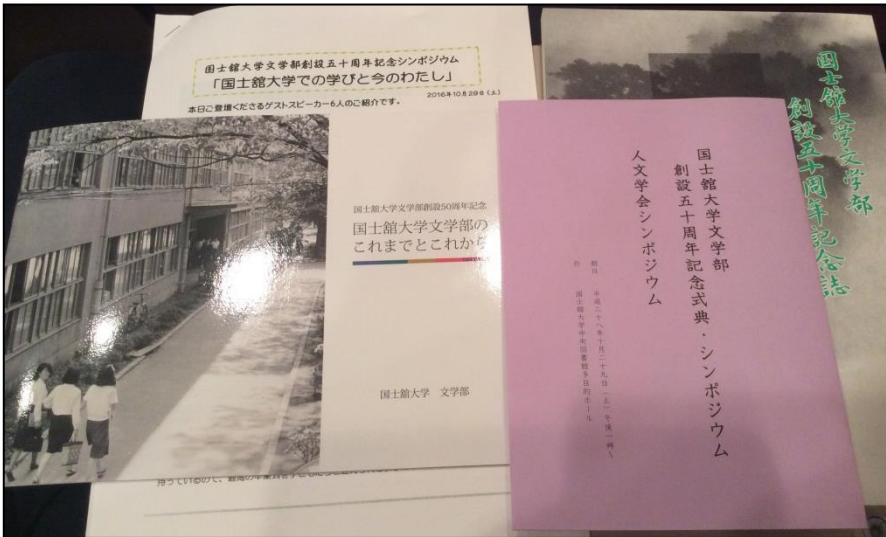


写真 4 (左) .
当日配布された記念冊子類

このあと 16:20 からは共催の文学部人文学会シンポジウムが行われ、こちらのシンポジウムにおいても、文学部の過去 50 年にわたる懐かしい写真などが紹介されました (写真 5) . そして全ての日程が終了した 17:15 からは、会場を変え、梅ヶ丘校舎 34 号館スカイラウンジにおいて盛大にレセプションが開催されました (写真 6, 7) .



写真 5. 佐々博雄先生 (考古・日本史学専攻) による「国士館大学文学部五十年の歩み」の講演

学部生の参加については、以前ゼミや講義時間を通じて学部生の参加を募っていたことを覚えている人もいますが、結果的にはある程度の数の学生が来てくれて (本音を言えばもうあと少し多く来てほしかったところですが) , 全ての予定は盛会のうちに無事終了しました.



写真 6. 名誉教授の長島弘道先生からの挨拶



写真 7. 長谷川文学部長による挨拶

なお、当日の式典・シンポジウムに参加した学生には、その場で記念ブックレット「国士館大学文学部のこれまでとこれから」および記念品 (記念ロゴ入りステンレス製タンブラー) が配られました。ちなみにこのブックレットの制作には地理・環境専攻の教員が関わるようになったため、内容が文化景観や 50 年間の景観変化を中心に編集されていることが、見る人が見ればわかると思います。まだよく読んでいない人は、しっかりと見直してみましよう。貴重な写真がいっぱい掲載されています。なお、記念ブックレットと記念品は、式典当日に来校しなかった学生にも、その後全員に配布されています。

(文学部創設 50 周年記念事業実行委員 内田 順文)

※写真は、すべて宮地先生撮影のもの。

【地理学教室創設 50 周年記念事業が開催されました】

地理学教室も 2016 年に創設 50 年の節目を迎えました。この間、約 2,500 名（大学院修士課程修了生 12 名）の学生たちが社会へ巣立っていきました。19 名の専任教員だけではなく、75 名の非常勤講師の先生方、19 名の学生主事・学生担当職員の皆様にも、地理学教室のカリキュラムや学生生活等を支えていただきました。

国土館大学地理学教室は、これまでさまざまな取り組みを行ってきました。次ページ以降に掲載します「地理学教室略史」の年表（表 1）をみてもらいたいと思います。1960 年代から 70 年代にかけては、地理学教室としてのカリキュラムづくりや学会組織の立ち上げなど教室の骨格づくりが進んだ時期だったように思います。新たな取り組みが次々と進み始めるのは、1980 年代に入ってからのことです。『卒業論文の手引き』の発行（1983 年）、パソコンの導入（1985 年）、卒業論文の製本保存の開始（1986 年）、卒業論文の口頭試験を公開化（1987 年）、カリキュラム改革（1988 年）、Newsletter の発行や学生による実習成果報告の開始（1988 年）など、現在でも続く地理学教室の行事や冊子がつくられていきました。1990 年代にも斬新な取り組みが続き、『教室のしおり』の発行（1990 年）、ガラス張りの地理情報処理室の設置（1991 年）、「ひまわり」「ノア」の受信施設の設置（1992 年）、リモートセンシングの解析システムや GIS ソフトの導入（1994 年）など、毎年のように新たな取り組みや設備の整備が進んでいきました。そして、中央図書館が完成した 1998 年に日本地理学会春季学術大会が国土館大学で開催され、全国の地理学関係者に国土館大学地理学教室の存在を大きくアピールすることになりました。

しかし、この頃から地理学教室を取り巻く環境は大きく変化し始めました。1990 年代は、二つの点で大きな転機を向かえていたといえるでしょう。一つは、高等学校における地理歴史科のうち世界史が必修となつて（1989 年告示、1994 年度実施）以来、地理の教員採用数の減少、履修生徒数の減少が進んだ点です。もう一つが、少子化を一つの要因とした受験者数の減少です。こうした変化のなかで、地理学教室のスタッフは試行錯誤を繰り返してきました。教室のホームページの開設や独自のパンフレットの発行（1998 年）は、国土館大学学内のみならず他大学の地理学教室と比べてもいち早く取り組んだものです。2001 年からは中学や高等学校の社会科教員へ、地理学の研究成果を還元することを目的に「地理ワークショップ」を始めました。近年では、繰り返しご参加いただいている先生の学校から、国土館大学地理学教室へ生徒を送ってくれるケースも出ています。また、カリキュラム改革も進みました。2004 年から始まるカリキュラムは、現在の専攻カリキュラムとしてほぼそのまま続いているもので、地理学の方法論や多彩な分野の最新の情報を盛り込んだものです。同じ時期に、専攻名を「地理学専攻」から「地理・環境専攻」へ改めました。入学する学生たちの学びたい内容は、当時から行われていた野口先生の新入生アンケートを通して「環境」に関わるものであると明らかになっていたのであります。

こうした地理学教室の「改革」は、二つの軸を大切に進められてきたものだろうと思います。一つは、学生と教員間の「風通し」をよく保つということです。地理学教室が発行する各種の冊子・出版物は、学生と教員のコミュニケーションツールとして活用されているものです。また、パソコンや各種のソフトの導入、学生が自由に使える地理実習室の整備（2008 年）などは、学生が学びやすい環境を整えるためにすすめられたものです。お互いの信頼関係なくして、日々の授業やゼミは成り立ちません。教員が考えていることを的確に学生へ伝えるとともに、学生たちが考えていることも教員へ話しやすい雰囲気をつくるということに、歴代の地理学教室スタッフは尽力してきたのではないかと思います。ガラス張りの地理情報処理室の存在は、そうした教員の思いが反映されています。もう一つは、教員間の「風通し」をよく保つということです。地理学教室のスタッフは、多様な地理学の分野をカバーできるよう、それぞれの専門領域が異なっています。また、年齢層も幅広いことも特徴です。こうした教室の構成員のあり方も、長年の地道な人事戦略の展開の中で実現しているものでしょう。そして、様々な大学の大学院出身者が、それぞれの経験や人的なネットワークの中で、地理学教室の取り組みにアイデアを出し合っています。仕事も完全に分担制です。各種会議や国土館大学地理学会の懇親会などで交わされる情報交換を通して、教員間の「風通し」は維持されています。だからこそ、ホームページやパンフレット、『地理学野外調査入門』の出版（2013 年）もできましたし、地理ワークショップなどの取り組みも継続できていると思います。そして何より、地理学教室創設 50 周年事業として、祝賀パーティーと記念誌が発行できたことも、日々の教室運営があったからこそだろうと思います。

いま、国土館大学では文学部改革が急展開で進んでいます。一方で、90 年代以降の地理学教室の運営に少なからぬ影響を与えてきた高等学校における地理教育の展開が、「地理総合」の必修化によって新たな局面を迎えています。地理学の存在価値は地理教育の世界のみに発揮されるものではありませんが、「地理総合」のカリキュラムが始まる前に、地理教育の世界へきちんと人材を輩出できるような教育を行うとともに、地理（学）を学びたいと思って入学してくる学生たちに、どのように地理学の魅力を伝えていくか、いま改めて検討する必要があることでしょう。また、これまでと同様、「自ら考え、調べ、まとめる」能力をもった社会人を育てていきたいと思っています。「次の 50 年」へ向けて、現スタッフが検討すべき課題はいくつもあります。一つ一つの課題に向き合い、その克服へ向けて努力していきたいと考えています。

（国土館大学地理学教室創設 50 周年記念誌 編集担当：宮地 忠幸）

表 1. 国士館大学地理学教室略史年表

年度	主な出来事
1966	文学部開設 (3 学科 7 専攻) ※1969 年に初等教育専攻が開設 (3 学科 8 専攻体制へ) 地理学専攻開設 (4 月) 専任教員は 5 名: 内田寛一・富田芳郎・大橋与一・山本正一・山口俊策
1970	第一次カリキュラム改革
1978	国士館大学地理学会設立準備委員会の発足 (4 月) 国士館大学地理学会発足 (5 月)
1979	国士館大学地理学会『国士館大学地理学会誌』第 1 号発刊 (3 月)
1983	『卒業論文の手引き』(初版)の発行 ※改訂: 1984, 1986, 1989, 1995, 1998, 2001, 2004, 2008, 2012, 2016
1985	文学部初のパソコン導入 (地理学教室が管理)
1986	卒業論文 製本保存の開始
1987	卒業論文口頭試験を公開化
1988	第二次カリキュラム改革…新設・廃止・名称変更 全体の約 4 割 Newsletter の発行開始 (2017 年 1 月までに 65 号を発行) 長島弘道教授 学外派遣研究員としてカナダへ留学 (1988 年度) 地理学野外実習の成果報告・研究発表会の開始 (12 月)
1989	NEC98 7 台体制に
1990	新入生用『教室のしおり』の配布を開始 (2009 年度まで)
1991	地理情報処理室 (ガラス張りの部屋) を設置
1992	「ひまわり」「ノア」の受信設備が設置される
1994	リモートセンシング解析用システムが設置される (私立大学研究設備整備助成金) GIS ソフトの整備も進む 大型計算機 FACOM M380 端末装置, ワークステーション SUN7 が配備される
1995	教養部廃止にともなう学部分属が始まる 第三次カリキュラム改革 長島弘道教授が文学部長に就任 (10 月) 個人研究室の整備が行われる (インターネット専用回線も整備される) 国士館大学地理学会 教員の各専門部会への参画 『国士館大学地理学報告』の定期刊行化
1997	専任教員の増員 (旧教養部から)
1998	日本地理学会春季学術大会の開催 (3 月) 専任教員の増員 (旧教養部から) 専攻のパンフレットを作成する (以降, 5 回の改訂を重ねる) 専攻のホームページの立ち上げ
1999	専攻のホームページの拡充 (今月の地理写真, 今月の衛星画像など: 7 月)
2000	鶴川キャンパス 9 号館 3 階に地理実習室が開設される。 カリキュラム改訂へ向けた議論が始まる。
2001	大学院人文科学研究科地理・地域論系 修士課程の開設 (4 月) 海外協定校との国際交流を始める (2016 年度までに合計 5 回実施) 社会科教員のための地理ワークショップの開催 (7 月) (2016 年度までに合計 16 回開催) 卒業論文 製本保存論文リストの web 公開が始まる
2003	大学院人文科学研究科地理・地域論系 博士課程の開設 (4 月) 大学院地理学分野の単位互換協定施行 (4 月) 長島弘道教授が大学院人文科学研究科委員長に就任 (4 月) 鶴川キャンパスの地理実習室が, 14 号館 4 階に変わる。
2004	専攻名称の変更 (地理学専攻から地理・環境専攻へ) (4 月) 第四次カリキュラム改革 (半期セメスター制の導入) 磯谷達宏助教授 育児休業 (同年 9 月~2005 年 3 月)
2005	長島弘道教授が大学院人文科学研究科委員長に再任
2006	野外での教育研究活動における安全管理のための指針を制定 (7 月) 野外調査安全マニュアルの策定
2008	世田谷キャンパスでの一貫教育が始まる (梅ヶ丘校舎が完成)。 これにともない, 地理実習室が 10 号館 2 階に開設される (4 月) 鶴川キャンパス 14 号館 4 階の地理実習室は閉鎖 (4 月) 長島弘道元教授が名誉教授に (6 月) 鶴川キャンパス (当時) に所蔵されていた岩石標本 (脇水鐵五郎氏のコレクション) の埼玉県自然史博物館による調査・整理が始まる (2010 年度まで)

GIS 学術士・専門 GIS 学術士の認定校になる

2009 卒業論文 製本保存論文の PDF 公開 (後に 2001 年度卒業生の分まで公開に)

2011 経済地理学会大会の開催 (5 月)

地域調査士・専門地域調査士の認定校になる

2013 国士舘大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社、を刊行 (5 月)

長谷川均教授 学外派遣研究員として法政大学へ (2013 年度)

2014 日本地理学会春季学術大会の開催 (3 月)

2015 加藤幸治教授 学外派遣研究員としてスイス・チューリッヒ大学へ留学 (2015 年度)

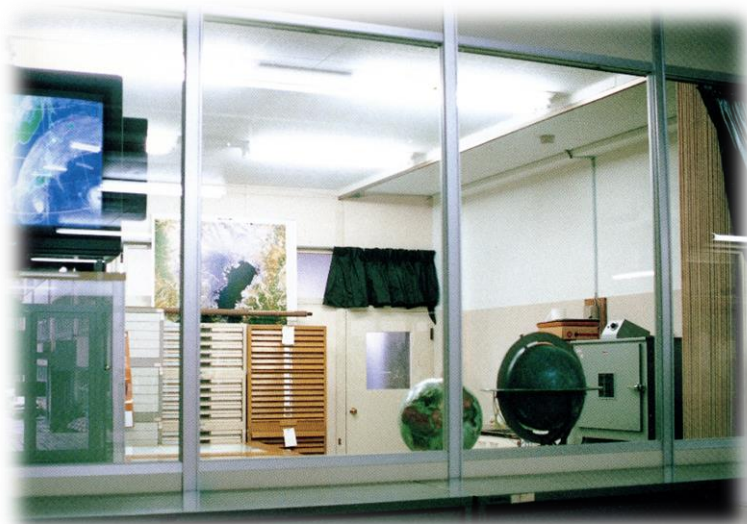
2016 長谷川均教授が文学部長に就任 (4 月)

野口泰生元教授が名誉教授に (6 月)

文学部創設 50 周年記念事業への参加 (10 月)

地理学教室創設 50 周年記念事業 (講演会・パーティー) (12 月)

資料：国士舘大学文学部・同創設 30 周年記念行事実行委員会編 1996. 『国士舘大学文学部創設 30 年史』, 国士舘大学文学部・同創設 40 周年記念行事実行委員会編 2006. 『国士舘大学文学部創設 40 年記念誌』, 国士舘大学文学部・同創設 50 周年記念事業実行委員会編 2016. 『国士舘大学文学部創設 50 年記念誌』, 国士舘大学地理学教室『Newsletter』 (各号), 地理学教室ホームページ記事, 各年度の卒業アルバムなどより作成.



←地理情報処理室 (1991 年)

地理学教室といえばガラス張りの地理情報処理室. 開放的な雰囲気の中で研究・教育活動が行われてきました. アメダスの画面に見入る学生も多いです.

(1991 年度卒業アルバムより転載)

階段教室：10204 教室 (右・下) →

卒業論文公開口頭試験, 学位記授与式の会場としても利用されてきました. 写真 (右) は, 2012 年度の卒業論文公開口頭試験における発表の様子. 写真 (下) は, 2015 年度の学位記授与式の様子.

(地理学教室ホームページ「専攻の写真帖」より転載)



地理実習室 (右) →

2008 年度から使用されている地理実習室.

多くの学生が卒業論文やレポートの作成に活用しています. パソコン 12 台をはじめ専攻が所蔵する図書, 雑誌, 統計, 地図類, 測量等の機材も保管されています.



12月17日（土）に行われた国士舘大学地理学会は、恒例の学生による実習の成果報告（研究発表会）とともに、地理学教室創設50周年を記念した講演会が34号館B205教室で行われました。長島弘道先生から「国士舘大学在職30年プラスその後」、野口泰生先生から「古き良き時代」、そして磯谷達宏先生から「地理学教室の50年とこれから」と題した講演がありました（写真1～3）。それぞれこれまでの地理学教室の歩みについて、写真等を交えてお話しされ、会場に集まった約100名の卒業生はなつかしい表情で、現役学生は（おそらく初めて聞いたであろう話に）興味深そうに聞き入っていました（写真4）。



写真1. 長島弘道先生（名誉教授）による講演



写真2. 野口泰生先生（名誉教授）による講演



写真3. 磯谷達宏先生による講演
生



写真4. 講演の話に聞き入る卒業生と現役学

その後、場所を移して祝賀パーティーが34号館地下1階の学生食堂で行われました。参加者は160名を超えました（写真5）。柴田徳文副学長（政経学部）、大崎晃元教授（1975～1990年度在職）にもご参加いただき、祝辞をいただきました（写真6, 7）。岡島建先生の乾杯で宴会はスタート（写真8）。楽しそうに思い出話をする卒業生や新旧教員の姿が印象的でした（写真9, 10）。最後に全員で記念撮影。参加者多数で3回に分けて撮影しました（写真11～13）。名残惜しい卒業生のなかには、夜中まで大学近くの居酒屋で懇親を深めた方もいらしたようです。

なお、この記念講演会・パーティーの開催に合わせて『国士舘大学地理学教室創設50周年記念誌』が編集・発行されました（図1）。歴代の教員の手元に残っていた資料、さらには文学部創設30周年記念誌、同40周年記念誌、同50周年記念誌、卒業アルバムに残されていた記録などを基に編集されたものです。3月にはその改訂版も発行されました。追って、この記念誌は地理学教室のホームページからも閲覧できるようにする予定です。

50周年記念事業の趣旨に賛同いただき、ご協力いただいたすべての皆様にお礼申し上げます。



写真 5. 160 名を超える参加者となった地理学教室創設 50 周年記念パーティー



写真 6. 柴田副学長からの祝辞



写真 7. 大崎晃元教授からの祝辞



写真 8. 岡島先生による乾杯の発声 (上)
 写真 9. 宴会がスタートしました (右上)
 写真 10. 会話が弾む宴会の様子 (右)





写真 11. 集合写真（1：比較的「古い」卒業生版）



写真 12. 集合写真（2：比較的「新しい」卒業生版）



写真 13. 集合写真（3：現役学生+a版）

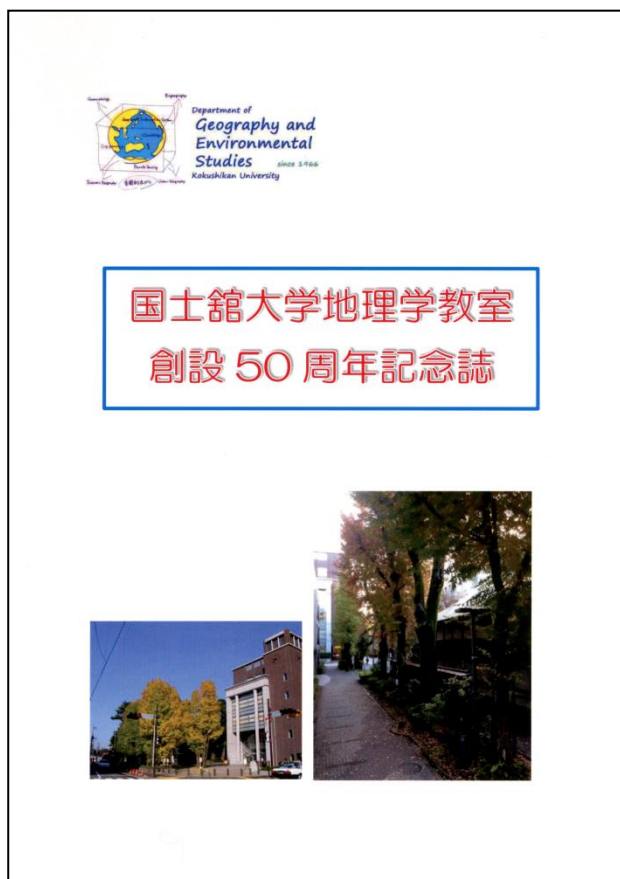


図 1. 国土館大学地理学教室創設 50 周年記念誌 (左：初版, 右：改訂版)

『国土館大学地理学教室創設 50 周年記念誌

(改訂版)』の目次

1. 専攻主任あいさつ (地理学教室の 50 年とこれから) . . . 1	1) 1 年生の野外実習 . . . 23
2. 地理学教室での思い出 . . . 2	2) 2 年生の野外実習 . . . 25
国土館大学在職 30 年 (長島弘道) . . . 2	3) 3 年生の野外実習 . . . 30
地理学専攻の公文書 (野口泰生) . . . 5	4) 4 年生の野外実習 . . . 34
3. 地理学教室 略史 . . . 7	9. 入学者数・在籍学生数・卒業者数 . . . 35
4. 歴代の教員 . . . 10	10. 大学院人文科学研究科地理・地域論コース 在籍学生数・修了生数 . . . 36
1) 専任教員 . . . 10	11. 歴代の地理学専攻/地理・環境専攻の 学生主事・学生担当職員 . . . 37
2) 非常勤講師 . . . 10	12. 地理学教室スタッフによる出版物 . . . 38
3) 兼担教授 . . . 13	1) Newsletter . . . 38
4) 特別客員教授 . . . 13	2) 新入生用「地理学教室のしおり」 . . . 40
5) 特任教授 . . . 13	3) 「卒業論文の手引き」 . . . 41
5. 役職者 . . . 14	4) 専攻パンフレット「地理学教室のご案内」 . . . 42
1) 学部三役 . . . 14	5) 『地理学野外調査入門－多摩丘陵の地理学 的見方・考え方－』 . . . 43
(1) 学部長 . . . 14	13. 日本地理教育学会 全国地理学専攻生卒業論 文発表大会発表者 . . . 45
(2) 教務主任 . . . 14	14. 社会科教員のための地理ワークショップ . . . 46
(3) 学生主任 . . . 14	15. 国土館大学地理学会 学会誌 . . . 49
2) 専攻主任 . . . 14	1) 地理学会誌 . . . 49
3) 学科主任 . . . 14	2) 国土館大学地理学報告 . . . 50
4) 大学院人文科学研究科 . . . 14	16. 国土館大学地理学会講演・研究発表会 . . . 56
(1) 委員長 . . . 14	17. 文学部紀要 (地理学関連論文) . . . 68
(2) 主任 . . . 14	18. 卒業生からのメッセージ . . . 73
6. 地理学専攻/地理・環境専攻の目的 . . . 15	編集後記 . . . 80
7. カリキュラムの変遷 . . . 17	
8. 歴代の野外実習 . . . 23	

【2016年度 国士舘大学地理学会冬季巡検（秩父・飯能巡検）報告】

2016年度2回目となる国士舘大学地理学会巡検が、2017年3月14日～3月15日に埼玉県内で実施されました。参加学生は計8名（2年生4名，3年生4名）で，引率教員は磯谷先生・野口先生（2日目のみ）にお願いしました。今回の巡検は、「埼玉県西部における里山の自然・人文地理」について学ぶことを目的としました（図1）。

2016年度 国士舘大学地理学会 冬季巡検行程表

- ・日 程：2017年3月14日（火）～3月15日（水）
- ・テ マ：埼玉県西部における里山の自然・人文地理
- ・引 率 教 員：磯谷達宏先生・野口泰生先生（2日目のみ）
- ・集 合：秩父電鉄，上長瀨駅
- ・解 散：国際興業バス，新寺バス停
- ・行 程：.....徒歩，——電車，——バス

<1日目>上長瀨駅(10:00 集合).....埼玉県立自然の博物館.....上長瀨駅——和銅黒谷.....秩父市内まで里山を見学しながら移動(昼食).....御花畑駅——武州中川駅.....民宿すぎの子(17:30 到着)

<2日目>民宿すぎの子(8:40 出発).....上長瀨駅——御花畑駅.....武甲山資料館.....横瀬町民俗資料館.....

横瀬駅——飯能駅(昼食)——野口バス停.....野口先生のご自宅や裏山等をご案内して頂きました.....新寺バス停(16:30 解散)

図1 巡検の概要



写真1. 上長瀨駅にて



写真2. 二次林（雑木林）の見学



写真3. ユニークな桑の木の利用



写真4. 民宿での夕食

1日目は，上長瀨駅で集合し初めに磯谷先生から埼玉県における秩父の位置づけについて解説して頂きま

した。その後、上長瀨駅から埼玉県立自然の博物館へ移動しました(写真1)。そこでは、地学・生物から秩父を知ることが出来ました。また、荒川の河畔にある岩畳・虎岩を見学し、この地域の地質の特徴について磯谷先生から解説して頂きました。その後、上長瀨駅から秩父電鉄に乗り、和銅黒谷駅で下車したのちに昼食をとり、午後からは秩父市内でかつて盛んであった養蚕業と桑栽培の実態を見学しようと、桑畑等を見るために徒歩で移動しました。段丘面では礫が多量にあり、畑として利用するまでには手間がかかると考えました。その礫を有効活用している農家が見られた一方で、ただ端に寄せただけといった農家もありました。後者は、家庭菜園レベルの小規模な畑において多く見られました。また付近では、二次林(雑木林)が存在し、この特徴を磯谷先生から解説して頂きました(写真2)。移動中には古い桑の木が野菜等の無人販売として利用されているのを見学しました(写真3)。秩父市内では、名所等がドラマやアニメーションに取り上げられていることが、掲示物等を通して知ることが出来ました。御花畑駅より武州中川駅まで乗車し、駅から10分ほどにある「民宿すぎの子」に宿泊しました。民宿での食事は、宿の方自ら数時間、急斜面を上り採取されたというイワタケをはじめとする山の幸を堪能することが出来ました(写真4)。今回宿泊した民宿の建物は築300年以上の茅葺屋根の住居とのことでした。

2日目は、再び御花畑駅まで秩父電鉄で移動の上、羊山公園を通り抜け、武甲山資料館へ移動しました。資料館では秩父の石灰石を採取し、セメントにするまでの過程や歴史等を学ぶことが出来ました。その後、横瀬町民俗資料館へ徒歩で移動しました。民俗資料館を後に、横瀬駅から西武秩父線の乗車し、飯能駅周辺において各自昼食をとりました。飯能駅のバス停にて地理・環境専攻の専任教員の方々と合流し、バスにて野口バス停で下車しました。バス停からは野口先生のご自宅までご案内して頂き、飯能の地誌について多くのお話をお聞きすることが出来ました。野口先生のご自宅は、江戸末期～明治初期に建てられたものに手を加えられているとのことでした。ご自宅のあたりは、江戸時代幕府の直轄領で木材の産地だったそうです。そのため、飯能には材木屋が数多く立地していましたが、外材の輸入が増加した影響から木材価格の下落を受けて、近年ではほぼすべてが廃業してしまったとのことでした。飯能では明治後期から大正期において養蚕業が盛んでした。養蚕農家の多くは、蛾から孵化した蚕を“たねや”から買っていたそうです。その“たねや”も野口先生のお宅は営んでいたとおっしゃっていました。野口先生のお宅は、農家としてこの地域の中心的な役割を果たしていたといえそうです。近年ではイノシシ等の害獣被害がひどくなっていること、野口先生のお宅は市街化調整区域であるゆえ、勝手に森林にもできないことから耕作放棄地が増加していることなどのお話をうかがいました。川を挟んだ向かいの無指定地区に新しい住宅が建ち並ぶようになり、新住民との間で少なくない生活意識の違いがあるとのことでした。飯能や住居についてのご説明をして頂いたのちに、ご自宅の裏山を案内して頂きました(写真5)。かつては、モミヤアカマツが生育していましたが、のちにスギ林に変えられたとのことでした。裏山の稜線に出ると、新宿および港区方面の高層ビル群やスカイツリーを見ることが出来ました。裏山から戻ると、続いて大正時代に造られたという土蔵の中を見せて頂きました(写真6)。写真からも分かるように土蔵は中のものが火事の際に燃えないように、屋根と蔵の間に隙間を開けている等、当時の人々の火事に対する工夫を感じ取ることが出来ました。土蔵の中には、明治時代のお皿や医者だった野口先生の祖父が使用されていた機材等が多くありました。



写真5. 野口先生宅の裏山にて



写真6. 土蔵の見学

私たちは、この巡検を通して沢山のことを学ばせていただきました。参加して下さった方々に、今回のテーマである「埼玉県西部における里山の自然・人文地理」に関して少しでも多くの知識が身につけていることを願っています。そして、今回の巡検の計画を立てる段階から親身に相談に乗って下さった磯谷先生・野口先生をはじめ、参加者の方々の協力のおかげで、当日はトラブルもなく無事に巡検を終わることができたことを感謝しています。ありがとうございました。

【地理実習室および地理情報処理室（世田谷 10 号館）の利用について】

（※ よく読むこと）

1. 世田谷 10 号館 2 階（10201）に地理・環境専攻の学生のための地理実習室があります。地理実習室は、学生の学習用に利用できます。利用法をよく読んで、積極的に活用して下さい。

利用時間と利用方法

毎日 9：00～18：00（原則）

- ・利用希望者は **5 号館 1 階 授業支援課カウンター**（※授業支援課の受付時間は、8:30～17:00）で、カギの貸出簿に必要事項を記入の上、カギを受け取る。解錠後は所定のカギ掛け（マップケースそば）にカギを掛けておくこと。カギを借り出した者は、退室時には必ず施錠し、カギを**授業支援課カウンター**に返却すること。17：00 以降にカギを返却する場合は、文学部担当窓口ドア横の返却箱に戻す。
 - ・退出時に他の学生がいて継続して利用したい場合は、あらためてカギを借り出すこと。カギの又貸しは、原則禁止します。
 - ・教員が在室している時は、事務室でカギを借りなくても、自由に入室できます。ただし、教員が退室する場合は、在室者・利用希望者が事務室からあらためてカギを借り出すこと。
 - ・地理実習室は飲食禁止です。整理整頓を心掛け、ゴミ等は廊下にあるゴミ箱に分別して捨てて下さい。
 - ・地理実習室は学習・研究のためのスペースですので、携帯電話も使用禁止です。通話・利用等は玄関か屋外でして下さい。
2. 実習室には地理学に関する基本的図書（多くは貸出も可。貸出方法は下記参照）、地理学関連の辞典もあります。復習・レポート作成時に役立ちます。以前、本地理学教室の教員であった大崎晃先生、日本地理学会元会長・東京大学名誉教授の吉川虎雄先生のご遺族より寄贈いただいた地理学及び関連分野の図書等も配架してあります。こちらも有効に利用して下さい。
国勢調査、事業所統計、工業統計、商業統計、農業センサスなど主要な統計（南関東の諸都県のものを中心）、道路統計年報、港湾統計年報、特定サービス産業実態調査報告書など図書館にない資料もあります。人文地理関係の科目で有効に活用できます。地理学の専門学術雑誌として、地理学評論（数年分）、経済地理学年報（約 20 年分）もあり、最新号が発行されるごとに配架されます。
統計類、雑誌類および辞書類の貸出は禁止です。統計・雑誌の一次持ち出し（コピー）は、教員の許可があればできます。
 3. 実習室内には地理・環境関係図書、地理・環境専攻学生専用の端末（PC）とプリンタ、スキャナ等が設置されています。これも学習用に利用できます。情報リテラシー教育を受けた学生に限り、インターネット、メール、その他のソフト（オフィス系）を使用することができます。利用上の注意は、情報メディアセンターの端末と同様です（学習に関係ないネット閲覧、ゲーム等は禁止です）。なお、GIS やリモートセンシング関連のソフトもインストールされているので、宿題や課題などもこれらの PC で行うことができます。
 4. 地理実習室は、学校荒らし・空き巣常習者などに狙われやすく、盗難のおそれがあるので、室内にモノを置いたまま外出しないようにして下さい。
なお、地理実習室内には防犯を目的として 2 台のネットワークカメラが設置されています。このカメラで撮影された動画は、地理情報処理室にあるネットワークハードディスクに保管されています。防犯と危機管理の面からもカメラの設置は必要ですので、理解と協力をお願いします。
 5. 地理実習室の向かいにある地理情報処理室は基本的に研究向けスペースとなります。特殊なソフト・機器等を利用するためのスペースと考えて下さい。使用については教員と相談して下さい（同級生が在室・作業等していても、通常利用の学生は地理実習室の方を利用して下さい）。

実習室の図書の閲覧および貸出方法（※ 必ず読んで、ルールを熟知すること）

- ▼ 研究室備品の地図・空中写真・製図道具等は、実習室内でのみ閲覧・利用して下さい。
- ▼ 利用する人は（教員も含めて）、見たり借りたりした本を必ず元の位置に戻すようにして下さい（図書は分野別に配架されています。おおよその位置は借り出す際、覚えておいて下さい）。多くの学生・教員が利用します。実習室に図書・資料を放置することなどないように、注意しましょう。
- ▼ 貸出は、「図書貸出簿」（雑誌ラックに置いてある青色の B4 ファイル）に、書名・住所・氏名など必要事項を記入の後、教員のチェックを受け、サインをもらって下さい。
- ▼ 返却も、必ず教員のチェックを受け、「図書貸出簿」にサインをもらって、各自責任を持って所定の書架（置いてあった場所）に戻して下さい。
- ▼ 3・4 年生はできるだけゼミの先生からチェックを受けて下さい。
- ▼ 貸し出し期限は 2 週間です。厳守して下さい。
- ▼ 以上を守らず、無断持ち出しした者、貸し出し期限を守らない者には、相応のペナルティが課されます。

【地理学教室・購入図書資料リスト（2016年度）】※ 書名と出版社名のみ

【全集・事典・地図等】

- 自然地理学事典 朝倉書店
- 地形の辞典 朝倉書店
- 全国駅名事典 創元社
- 現代日本経済史年表 1868-2015年 日本経済評論社
- 世界地名大事典4・5・6 朝倉書店
- ルクリュの19世紀世界地理1 東アジア古今書院
- " 2 北アフリカ古今書院
- " 3 アメリカ合衆国 "
- 関東のジオパーク 古今書院
- 北海道・東北のジオパーク 古今書院
- 中部・近畿・中国・四国のジオパーク 古今書院
- 九州・沖縄のジオパーク 古今書院
- 経済地理学の成果と課題 第7集 日本経済評論社
- 日本地理学人物事典 現代編2 原書房
- 日本地理学人物事典 近世編 原書房
- 日本地理学人物事典 近代編1 原書房
- 図説 イスラーム百科 原書房
- 世界の都市地図500年史 河出書房新社
- 地図の物語 日経ナショナルジオグラフィック社
- 地理 2016年3月号増刊「地理×女子=新しいまちあるき」 古今書院
- 地理 2016年11月号増刊「シーボルトが日本で集めた地図」 古今書院
- 地図教材を作って半世紀 一掛地図と地球儀の世界 グローバルプランニング
- フンボルトの冒険 NHK出版
- 探検家と地理学者 古今書院
- フィールドノート古今東西 古今書院
- 女も男もフィールドへ 古今書院
- フィールド写真術 古今書院
- 四訂版 GISと地理空間情報 古今書院
- Rで学ぶ空間計量経済学入門 勁草書房
- 空間統計学: 自然科学から人文・社会科学まで (統計ライブラリー) 朝倉書店
- 地理空間データ分析 共立出版
- 2015 JR貨物時刻表 鉄道貨物協会
- 県別マップル(全都道府県分) 昭文社
- 琉球の樹木—奄美・沖縄～八重山の亜熱帯植物図鑑 文一総合出版
- 木のタネ検索図鑑—同定・生態・調査法— 文一総合出版
- 地図でわかる樹木の種苗移動ガイドライン 文一総合出版
- 日本のカエル—分類と生活史 全種の生態, 卵, オタマジャクシ— 誠文堂新光社
- ニホンカモシカ: 行動と生態 東京大学出版会
- サバンナ農地林の社会生態誌—ナミビア農村にみる社会変容と資源利用— 昭和堂
- 奄美群島の生物多様性 —研究最前線からの報告— 南方新社
- 南西諸島の生物多様性, その成立と保全 南方新社
- 野外観察のための日本産両生類図鑑 緑書房
- 野外観察のための日本産爬虫類図鑑 緑書房
- 森林景観づくり 日本林業調査会
- 植調雑草大鑑 全国農村教育協会
- 淡水魚保全の挑戦 東海大学出版部
- 地上と地下のつながりの生態学 東海大学出版部
- 奄美群島の自然史学 —亜熱帯島嶼の生物多様性— 東海大学出版部
- フィールドで出会う哺乳動物観察ガイド —生態写真でわかる探し方や見わけ方のポイント— 誠文堂新光社
- 改訂新版 日本の野生植物 2: イネ科～イラクサ科 平凡社
- 改訂新版 日本の野生植物 3: バラ科～センダン科 平凡社
- 新装版火山学I 古今書院
- 新装版火山学II 古今書院
- 微地形学 古今書院
- アンデス自然学 古今書院
- 【人文地理学関係】
- ライブパフォーマンスと地域—伝統・芸術・大衆文化— ナカニシヤ出版
- ショッピングモールと地域—地域社会と現代文化— ナカニシヤ出版
- 知識と文化の経済地理学 古今書院
- 保育・子育て支援の地理学 明石書店
- 〈サピエンティア〉空間経済学 東洋経済新報社
- 古地図で見る京都: 『延喜式』から近代地図まで 平凡社
- 忘れられた日本の村 河出書房新社
- 近未来の交通・物流と都市生活 慶應義塾大学出版会
- 鉄道の歴史 創元社
- ローカル鉄道という希望 河出書房新社
- 科学の目で見える日本列島の地震・津波・噴火の歴史 ベレ出版

【自然地理学関係】

- 野生動物の餌付け問題 地人書館
- 集団生物学 共立出版
- 森林集水域の物質循環調査法 共立出版
- タンポポハンドブック 文一総合出版
- 街なかの地衣ハンドブック 文一総合出版
- タカ・ハヤブサ類飛翔ハンドブック 文一総合出版
- 鳥のフィールドサイン観察ガイド 文一総合出版

- 帝国日本と地政学 清文堂出版
- 「昔の名残」が見えてくる! 城下町・門前町・宿場町がわかる本 日本実業出版社
- 昭和の郊外 東京・戦前編 柏書房
- 昭和の郊外 東京・戦後編 柏書房
- 第三セクター鉄道の世界 宝島社
- 観光の地理学 文理閣
- 地域社会の変動と文化 大学教育出版
- 日本経済と過疎地域の再生 大学教育出版
- 過疎地域再生の戦略 ―地方創生から地方再生へ― 大学教育出版
- 被災者支援のくらしづくり・まちづくり 古今書院
- コンパクトなまちづくり 古今書院
- 「観光まちづくり」再考 古今書院
- まちづくりのための中心市街地活性化 古今書院
- 地域をさぐる 古今書院
- 利根川近現代史 古今書院
- 観光先進地ヨーロッパ 古今書院
- 交響する都市と農山村 農山漁村文化協会
- ローカルに生きる, ソーシャルに働く 農山漁村文化協会
- 地域文化が若者を育てる 農山漁村文化協会
- 玉川上水 武蔵野ふしぎ散歩 農山漁村文化協会
- 地域農業の持続システム 農山漁村文化協会
- 武蔵野・江戸を潤した多摩川 農山漁村文化協会
- 江戸・東京農業名所めぐり 農山漁村文化協会
- 都市農業必携ガイド 農山漁村文化協会
- 図説 生物多様性と現代社会 農山漁村文化協会
- 暮らしと景観 農山漁村文化協会
- 忠敬と伊能図 アワプランニング
- グローバリズムの終焉―経済学的文明から地理学的文明へ― 農山漁村文化協会
- 女性就業と生活空間 明石書店
- 職業キャリアの空間的軌跡―研究開発技術者と情報技術者のライフコース― 大学教育出版
- 地域研究法―経済地理入門― 大明堂
- アメリカ大平原―食糧基地の形成と持続性― 古今書院
- 地理学概論 (第2版) 朝倉書店
- 日本のクラスター政策と地域イノベーション 東京大学出版会
- グローバルプレッシャー下の日本の産業集積 日本経済評論社
- 新地場産業と産業環境の現在 日本経済評論社
- 産業集積の変貌と地域政策―グローバル時代の地域産業研究― ミネルヴァ書房
- 農地管理と村落社会―社会ネットワーク分析からのアプローチ― 世界思想社
- 大都市型産業集積と生産ネットワーク 世界思想社
- チロルのアルム農業と山岳観光の共生 風間書房
- 日本企業の国際フランチャイジング―新興市場戦略としての可能性と課題― 新評論
- 外食国際化のダイナミズム ―新しい「越境のかたち」― 新評論
- アジア市場を拓く―小売国際化の100年と市場グローバル化― 新評論
- アジア市場のコンテクスト【東アジア編】―受容のしくみと地域暗黙知― 新評論
- アジア市場のコンテクスト 東南アジア編―グローバル化の現場から― 新評論
- 立地創造 ―イノベーション行動と商業中心地の興亡― 白桃書房
- 実証分析のための計量経済学 中央経済社
- 地図趣味. 洋泉社
- 地図で解明! 東京の鉄道発達史 ジェイティビィパブリッシング
- サービス経済化時代の地域構造 日本経済評論社
- 都市の空間と時間 古今書院
- 生活の空間 都市の時間 古今書院
- 企業内地域間分業と農村工業化 大明堂
- 文化としての都市空間 千倉書房
- 名古屋圏の都市地理学 風媒社
- 地産地消の歴史地理 古今書院
- 方言の日本地図―ことばの旅― 講談社+α新書
- ことばの地理学―方言はなぜそこにあるのか― 大修館書店
- 人間の営みがわかる地理学入門 ベレ出版
- 工場の経済地理学 原書房
- 経済地理学―立地・地域・都市の理論― 東京大学出版会
- 都市・地域経済学への招待状 有斐閣
- 地域と産業―経済地理学の基礎― 原書房
- 環境変化と工業地域 原書房
- 工芸産業の地域 原書房
- ソ連・ロシアにおける工業の地域的展開―体制転換と移行期社会の経済地理― 原書房
- 日本からみた世界の諸地域 世界地誌概説【改訂版】 原書房
- 地域構造論〈下〉分析編 (矢田俊文著作集) 原書房
- 現代日本の産業集積研究―実態調査研究と論理的含意― 慶應義塾大学出版会
- 産業地域の形成・再編と大企業―日本電気機械工業の立地変動と産業集積― 原書房
- 図説 新・日本地理―自然環境と地域変容― 原書房
- 環境都市政策入門 古今書院
- 都市の空き家問題 なぜ? どうする? 古今書院
- 新潮文化論の地理教育学的研究 古今書院
- 図説 世界の地誌 改訂版 古今書院
- 東京大都市圏郊外の変化とオフィス立地 古今書院

※ 自分の興味に近いような本がありませんか? 基本的に地理実習室に置いてありますので、まずは手にとって内容をみてみましょう。貸出できる本も多いので、興味ある本は借りてじっくり読んでみましょう。

【地理学教室・購入主要備品リスト（2016年度）】

● データロガー RTR-503/503L	6 台	● ヤマナビ 2.5(東日本版) ハンディGPSナ	2 台
● ライフジャケット	5 着	● デジタル温湿度計・露点計 H560	1 台

* 地理学教室の備品・電子データ資料等は教員の指導のもと、学生も使用することができます。

以前に購入した国勢調査の電子データ（従業通学データ）、商業統計表データ（立地環境特性別統計編（商店街ごとの売上などが掲載されたデータ））、事業所・企業統計データ（市区町村別・産業小分類別事業所数のデータも入手可能）、農林業センサス集落カードなどもあります。卒論でも有効に使えます。詳しくは教員（とくに宮地，加藤）まで。

【製本・PDF 化して保存される卒業論文主題（2016年度）】

・地理学教室では、1986年度から2015年度までに提出された卒業論文のうち、526編を優秀卒業論文として保存しており、そのリストは地理学教室ホームページに掲載されています。2016年度の卒業論文のうち、優秀卒業論文として保存されるのは、次の18論文です。

2001年度以降の優秀卒業論文はホームページから閲覧することができ、下の論文もそこに含まれます。ただし、印刷はできません。

閲覧にはパスワード等が必要になります。これに関しては講義やゼミの際に、地理学教室専任教員から聞いて下さい。不明な点があれば、担当の二人の教員まで問い合わせてください。

※長谷川 (hasegawa@kokushikan.ac.jp) もしくは宮地 (tmiyachi@kokushikan.ac.jp)

・2017年3月14日（火）の全国地理学専攻学生卒業論文発表大会（「卒論の甲子園」ともいわれる各大学の優秀卒業論文の発表会：日本地理教育学会主催）には、西山 智（磯谷ゼミ）、伊邊明里（宮地ゼミ）の両君が選ばれました。

氏名	表題	所属ゼミ
菅原 孝太	湘南イメージの変遷について —藤沢・鎌倉・茅ヶ崎のタウン誌をテキストとして—	内田ゼミ
江連 大貴	工場見学に対する意識と地域差 —関東地方と近畿地方の飲食料品工場を事例に—	内田ゼミ
野本 貴士	秋田県小坂町における資源循環型産業の構築へ向けた取り組みの実態	宮地ゼミ
西山 智	関東地方中南部におけるスギ (<i>Cryptomeria japonica</i>) 衰退の現状とその要因	磯谷ゼミ
國田 大喜	埼玉県川越市における観光イメージ —小江戸川越を事例に—	内田ゼミ
牛尾 祐太	広島県宮島における観光客の行動様式	内田ゼミ
馬場 康平	道路交通環境に着目した交通事故多発地点の分析と改善策について —千葉県内の交差点を事例に—	岡島ゼミ
吉岡 大貴	千葉県南房総市岩井地区における体験教育旅行の受け入れと民宿事業の実態	宮地ゼミ
鈴木 大輝	下部温泉における宿泊施設の経営動向と温泉機能の変容	内田ゼミ
近藤 建斗	レジャー施設がもたらす河川への影響	長谷川ゼミ
松原 祥平	大井川下流部にみられる複列砂州・鱗状州の経時変化	長谷川ゼミ
前原 翔吾	松川浦におけるアマモ場分布の経年変化 —UAVによる接近画像と空中写真判読をもとに—	長谷川ゼミ
國信 佳祐	津波災害における避難施設・避難経路の安全性の研究 —神奈川県鎌倉市を例に—	長谷川ゼミ
福嶋 栄美	宮崎市の居住地域構造	加藤ゼミ
佐藤 宏昭	秦野盆地における逆転層の特徴と出現域について	中村ゼミ
板倉 豊	北陸地方の冬の北西季節風下における輪島の南風について	中村ゼミ
伊邊 明里	CSR活動の多様化と企業と地域との交流実態とその意義 —JTと陸前高田市の取り組みを例に—	宮地ゼミ
樋口 達也	三浦半島森戸川流域における明治期以降の植生復元とその変遷	磯谷ゼミ

【2017年3月卒業生の進路・就職先】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ■ すばる交通 | ■ 東日本総合計画株式会社 |
| ■ 大阪モノレールサービス株式会社 | ■ 国際興業株式会社 |
| ■ 株式会社ロピア | ■ 夢真ホールディングス |
| ■ 株式会社パスコ（技術・営業） | ■ 株式会社マシキュリー |
| ■ 日本レストランエンタープライズ | ■ 株式会社CSS 技術開発 |
| ■ 株式会社カナモト | ■ 朝日航洋株式会社 |
| ■ JR 東日本 | ■ 一般財団法人休暇村協会 |
| ■ 株式会社カインズ | ■ タイムズ24株式会社 |
| ■ 株式会社系ミックス（道路事業部） | ■ トヨタ部品東京共販株式会社 |
| ■ 協振技建 | ■ 株式会社ヤオコー |
| ■ 大和自動車交通 | ■ 都市環境整備株式会社 |
| ■ 株式会社東急リゾートサービス | ■ 栃木日産自動車販売株式会社 |
| ■ イオン保険サービス | ■ ベルク |
| ■ 株式会社モビリティランド | ■ エイチ・アイ・エス |
| ■ 資生堂 | ■ 株式会社ロピア |
| ■ ジェイエイ・トービス株式会社 | ■ 茅ヶ崎市役所 |
| ■ ゼンリン株式会社 | ■ 栗原市（地域おこし協力隊） |
| ■ 積水ハウス株式会社 | ■ 警視庁 |
| ■ 株式会社エイブル | ■ 埼玉県警 |
| ■ 西武信用金庫 | ■ 首都大学東京大学院 |
| ■ JTB | ■ 法政大学大学院 |
| ■ フォーナインズ | ■ 国士舘大学科目履修生 |

※ 以上は、主として2月上旬時点で地理学教室に、業種だけでなく企業名等も含めた報告があったものです。

【就職活動体験談（2016年度）】

以上の就職先に内定を得た学生のうち、何人かに就職体験談を寄せてもらいました。質問内容は次の通りです。次の1～12の質問内容に対する回答を掲載しています。

1.氏名, 2.内定企業名, 3.業種, 4.職種, 5.その企業を選んだきっかけは何か? 6.内定までの流れ(時期と選考内容), 7.やっておいてよかったこと, 8.面接で聞かれたこと, 9.失敗談, うまくいかなかったこと, 10.この企業に就職することを決めた理由は? 11.面接が不合格だった後に努力や工夫したこと, 12.後輩へのメッセージ(アドバイス)

1. 近藤建斗
2. 就職先 国際航業株式会社
※内定会社 株式会社PASCO, アジア航測株式会社, 大塚商会株式会社
3. 空間情報コンサルタント
4. 営業職
5. 父が測量業を営んでいて、中学時代から現場で手伝いをしており、魅力ある業界だと感じていました。文系で唯一、測量士補を取得できる学科であり測量士を目指すために入学し、3年間大学で学んだ中で、その志望がぶれなかったため、この業界を志望しました。
6. 4月初旬 一次選考（グループワーク、個別面接 [学生1・面接官1]）
4月下旬 二次選考（集団面接 [学生2・面接官3]）
5月中旬 三次面接（個別面接 [学生1・面接官3]）
6月1日 内々定通知
7. ワークシート形式の自己分析。キャリアカウンセラーとの面談（就活トレーニング）。
8. 受けた質問の中で、癖のある質問をあげます。
 - ・個人の5年後、10年後、20年後それぞれまでのキャリアビジョン
 - ・自分の短所の克服方法
 - ・自分と合わない上司と仕事をやる上で、どう仕事を進めるか
 - ・当会社の弱み
 - ・休眠顧客をどう掘り起こすか
 - ・いくつかのシチュエーション（ネガティブな）を想定したロールプレイング

9. 自分の志望と異なる業界（不動産や様々な業界）も選考を受けたが、序盤は面接練習になって勉強になったが、毎日のように選考日程が続き、やはり、志望度の薄い業界は良い結果が得られず、結果的に時間の無駄となってしまいました。
10. 同業界で複数内定を頂き、第一志望は株式会社 PASCO でした。しかし、就職先である国際航業株式会社は、選考において自分をしっかりと見てくれていると感じ、自分への評価が一番してくれている会社であると思ったからです。また、福利厚生や、風通しの良さそうな社風も自分に合っていると思い、弊社を選びました。
11. 面接を受けられるようになった時期は、緊張でガチガチになってしまい、自分を表現できなかったので、リラックスし、自然と話すことを意識しました。しかし、幸い志望度の低い業界の選考が早い時期にあったため、その経験を生かして選考に臨むことができました。
12. 先に述べたように、自己分析が大事だと思います。就活は、面接などで自分を表現するときのために、自分の短所や長所、過去の大きな経験などを頭に入れておくことが、重要です。大学生から社会人になるターニングポイントの直前に自分がどんな人間であるか、考え、見直しできる良い機会であり、この機会を生かして自己分析を深くすることをお勧めします。自分は、序盤の志望度の低い企業との面接を面接練習とし、キャリアセンターのキャリアカウンセラーの方との面談では、自己分析を深く掘り下げてもらいました。そこで、自分の良い面も悪い面も多く気づくことができました。何度も言いますが、自己分析とキャリアセンターの方との面談は本当に大事だと思います。最初は、不安な気持ちが大きいと思いますが、徐々に慣れ、面接も自分中心に話が回り、楽しくなり、苦で無くなります。自分を信じて頑張ってください。

1. 松原祥平
2. 株式会社 PASCO (パスコ)
3. 建設コンサルタント 空間情報事業
4. 技術職（詳細は未定）
5. 大学で学んできた地理空間情報を活かすことのできる仕事ができるため。
6. ・3月中旬 会社説明会に参加
 - ・4月中旬 一次面接、合格後 web テスト
 - ・4月下旬 2次面接 筆記テスト
 - ・5月下旬 最終(役員)面接
 - ・6月上旬 内々定
7. 同業他社の説明会等に参加することにより、他社に比べてどこが魅力的なのかを確認出来た。また、企業がどのような業種でどのような事業を展開していて、自分がその中で何をやりたいのかをはっきりさせることができました。
8. ・志望理由（なぜこの仕事をやりたいのか、なぜ当社を志望するのか等）
 - ・学生時代に力を入れたこと
 - ・卒業論文の内容（細かいところまでしっかり聞かれました。研究目的や意義、方法など）
 - ・会社で何をやりたいのか
 - ・長所、短所
9. 面接でとても緊張してしまい、予測してきた質問などにもうまく話せなかったこと。
10. 大学で学んだことを活かせる仕事ができると思ったこと。また、業界の中でも規模が大きく、幅広い事業を手がけているので、色々な事業に携わることが出来る可能性があり面白そうと思ったため。
11. 聞かれた質問で上手く話せなかった内容は、次はきちんと話せるようにしたこと。
12. これから就活をする上で SPI・面接の練習はもちろん大切だとは思いますが、1番大事だと思うのは自分が何をやりたいのかをはっきりさせる事だと思います。そうすれば、熱意をもって話す事ができ、相手に想いがきちんと伝わると思います。辛い事が多いとは思いますが、諦めず、挫けずに頑張ってください。

1. 國信佳祐
2. 朝日航洋株式会社
3. 航空事業、空間情報事業
4. 航空レーザ計測、インフラ・エネルギー、防災コンサルタント、行政マネジメント
5. ボランティア活動やゼミを通して、防災、災害関連の仕事に就きたいと思っていたから
6. 3月下旬 企業説明会
 - 4月下旬 エントリーシート提出締め切り
 - 5月中旬 SPI 締め切り
 - 6月上旬 第一次選考（グループワーク、グループ面接）
 - 6月中旬 第二次選考（グループ面接）
 - 6月下旬 最終選考（役員面接）
 - 内々定通知

7. その企業について、最後の最後まで調べる。さらに、自分自身がその企業に入社後、どうなっていたのか、どのように貢献したいのかを想像する。
8. 1) 大学での研究テーマ
2) 趣味
3) どのように息抜きをしているか
4) 当社に入って、どのように会社を成長させていきたいのか
5) 当社に入って、どのような人財になりたいのか
9. 企業研究
10. 1) 社員をすごく大切にしている（社員1人1人のことをしっかりと見ている）
2) 雰囲気が良い
3) 防災関連の仕事ができる
11. どこが悪かったか反省した後、この企業とは自分は合わなかったんだ、次の企業は必ず合うはずと切り替える。
12. 事前7割当日3割というように、事前でどれだけ詰められるかが勝負だと思います。事前を詰められれば、当日も余裕を思っ落ちて落ち着いて喋られるはず。あともう一つ言うならば、就活だけで、人生が決まるわけではありません。たくさんの道がある、これが人生だと思っています。だからこそ、自分を追い込まず、広い視野を持って就活に挑んでください。

1. 野本貴士
2. 株式会社パスコ
3. 航空測量, 空間情報, コンサルタント
4. 営業職 (公共営業, 民間営業)
5. 地図が好きだったこと, 行政や官公庁相手の営業に強かったこと
6. 3月1日: マイナビにてエントリー
4月16日: 企業説明会→書類選考
5月11日: 一次選考 (面接)
5月18日: Web 適性検査
5月19日: 二次選考 (面接, 小論文, 小テスト)
6月9日: 最終選考 (重役面接) →内々定
7. 1) 面接の“基本的質問”とその回答をまとめたメモ帳を待ち時間に確認したこと
2) すべての質問に対しての模範解答を作らないこと→断片的に覚えればよい (一語一句完璧に覚えて話そうとすると忘れたときに頭が真っ白になったり, 思い出そうとして上の空を見てしまい面接官と目を合わせられなくなる)
8. 1) 基本的質問→志望動機, 長所と短所, 学生時代に頑張ったこと, 等
2) この企業で営業職として成し遂げたいこと→将来の明確な目標を立てておく
3) 同業他社がある中で, どうして弊社なのか→各企業の“強み”を知っておく
9. 1) 「弊社が第一希望ですか?」という質問に「第一志望群です」と答えたこと
2) 「弊社が内定を出したら, 何日後に内定承諾書を出しますか?」というアンケート項目で「吟味したいので1~2週間待ってほしい」に丸を付けてしまったこと
10. 妥協ではなく, 元々行きたい企業 (志望順位の高かった企業) としての位置付けだったので, 内定を得てすぐ受諾した。
11. 1) 「今までの面接は練習だった」と思い, 何がどういけなかったのかを反省し, 答えを見つけたら別 (次) の面接で実践をする
2) すでに内定をもらっていた友人からアドバイスや意見を求める
12. 1) 面接は, 緊張していると辻褄が合わなくなったり, 何が言いたいのか上手く伝わらなくなってしまう。最初はど話していいのかわからないと思います。回数を重ね失敗や反省をすることで, 面接の質を上げましょう。「質問への完璧な回答ができるか」や「これに落ちたらどうしよう」などといった, 緊張のボルテージを上げてしまうような余計なことは考えず, リラックスした状態で臨みましょう。
2) 不合格のお知らせ (通称, お祈りメール) がきてもくじけず, ポジティブな感情を持ち続けてください。就活はネガティブになったら負のスパイラルに陥ります。不合格のお知らせがきたら, 何がいけなかったかを反省すると同時に, 「なにくそ」と思って反骨精神で立ち向かえるようにしましょう。

1. 伊邊明里
2. 一般財団法人 休暇村協会<
3. ホテル 事業, レクリエーション事業
4. サービス, 企画等の休暇村事業
5. ・お客様と直接関わる仕事ができ, なおかつサプライズ精神を持って接客を行う姿勢が見られるため。
・地域への貢献, 環境保全に対する取り組みに熱心に取り組んでおり, ゼミでの地域活性化の取り組み

- に重なる部分があるため.
- ・ホテル業では珍しい, 企画・運営を自ら行えるレクリエーション事業を行っているため.
- 6. 3月 エントリー, 説明会参加
 - 4月 書類選考, 現地見学会 (希望者のみ)
 - 5月 集団面接, 個人面接
 - 6月 最終面接→内々定
- 7. 企業分析を細かく行い, 自分の経験談と, その経験が企業にどのように活かせるかを結びつけられるように, 志望動機を熱心に考え準備したこと.
- 8. ・自己 PR, 学生時代に力を注いだこと
 - ・志望動機
 - ・長所, 短所
 - ・企業の歴史
 - ・ES や履歴書に書いた内容から質問
- 9. 企業の歴史について面接で問われた際に, 企業分析不足で答えられなかったこと.
- 10. 自分が希望する仕事内容に近く, その企業に魅力を感じたため.
- 11. 反省点はノートに書き出し, 次回以降に活かせるよう復習した. また, 不合格だったことを引きずらず, 気持ちを切り替えることを心がけた.
- 12. 面接は, 上手く話せなくても, 熱意を持って臨めばきっとその想いは伝わります. 就活は悩みが絶えないと思いますが, 友達や先輩, 先生に相談しながら, 頑張ってください. 働きたい! と思える企業に出会えることを祈っています.

1. 國田大喜
2. (株) 東急リゾートサービス
3. ホテル業
4. 接客業
5. 安定した企業で福利厚生が良いところ
6. 2/18 インターンシップ→3/3 SPI テスト→3/18 個人面接→3/23 集団面接→3/24 内々定
7. SPI テストの対策, 企業研究
8. この企業を選んだ理由, 学生時代頑張ったこと, 英語は得意か
9. 無理に質問の答えを覚えなくて自然体で話すこと
10. 会社見学や選考に行った時に社員同士の仲の良さを感じたから
11. 落ち込みすぎない
12. 面接で聞かれることは, 自分自身の経験談や考えが多いので, その答えを一番分かっているのは自分自身なので, 身構えずにリラックスして笑顔で会話をしてください.

1. 鈴木大輝
2. JTB 首都圏
3. 旅行業
4. 接客, 営業
5. 信頼が重要な旅行業界の最大手であったため
6. 5月 エントリーシート提出, JTB 全国共通適正 検査
 - 6月 一次面接&グループディスカッション→二次面接 (個人) →最終面接→内々定
 - ※面接は1週間のうちに3回行いました
7. 業界, 企業研究
8. 数ある旅行会社のなかで何故弊社なのですか?
9. SPI 対策
10. ・業界最大手であること
 - ・福利厚生の充実
11. 気持ちの切り替えや息抜き
12. 事前の準備により自信が持てて, 内定へと繋がりました. 早いうちから準備できることは沢山ありますので怠らないようにして下さい. 企業とは縁もあると思うので, 不合格になってもあまり深く考え込まずに次に切り替えることが大切です.

1. 大塚憲司
2. 東日本旅客鉄道株式会社 (JR 東日本) 東京支社
3. 運輸・鉄道
4. プロフェッショナル職
5. 小さいころから, 鉄道に乗り, 見てきてため憧れがあった. 大企業であり, 多くの命を預かり, 安全に勤めるというやりがいがあると考えたため.

6.
 - ・1次選考 5月上旬までにエントリーシート提出（自己PR・フィールドの志望理由）
 - ・適性検査の受験（国・数）テストセンターにて→約1週間後 JR 東日本マイページ・メールにて連絡
 - ・2次選考 6月初めに JR 東日本エリア各都市会場にてクレペリン検査・鉄道総研によるNR検査、健康診断→4日後に電話連絡・JR 東日本マイページ
 - ・最終選考 6月中旬 JR 東日本各支社にて5人程度でのグループディスカッション、20分間の個人面接（面接官2人）、目の視野の検査→6日後に電話連絡

※2次試験・最終試験の日程は、何日間の中か選択可能。しかし、志望度の高さから早めに決める必要あり。
7.
 - ・普段から鉄道に乗る機会が多く、鉄道会社の差別化を図れた。
 - ・OB訪問→志望する業界の先輩から情報により、選考で生かすことができました。
 - ・SPIなど計算問題は普段から慣れておく必要があります。
就活の直前から本格的に問題を解き始めたため、計算問題などの選考で落とされた企業もあります。そのため、早くから問題に慣れておく必要があります。
 - ・エントリーシートは、自己分析・自己PR・志望動機を考えるきっかけになるためできるだけ早めに考えた方が良いです。
 - ・企業についてより詳細に調べる。これだけうちの会社に興味を持ってくれていると人事担当者に伝わります。
 - ・キャリアカウンセラーの方からエントリーシートや面接について教えていただきました。
8.
 - ・志望動機は何ですか？
 - ・学生時代頑張ったことは何ですか？
 - ・学生時代の失敗談はありますか？
 - ・鉄道は好きですか？
 - ・なぜJRなのですか？
 - ・プロフェッショナル職に期待することは何ですか？
 - ・JR東日本の最近の良いニュースは何だと思えますか？
 - ・入社後、自己啓発のために何をしますか？
 - ・最後に、自己PRを簡単に教えてください
9. 最初に受けた面接で、自己PRしか言えなかったこと。自己PRと志望動機を準備していましたが、2分で自己PRと志望動機をまとめてくださいと言われ、うまく言えませんでした。企業の説明会で、エントリーシートを提出するはずでしたが、見落としていて後日提出したこと。メール、企業のページなどに書かれていることは何度も確認してください。
10. 地元の会社に受かっていた、他の鉄道会社の選考が後だったことを踏まえ、子供の頃からの憧れであり待遇も整っているため。
11. 面接では、臨機応変に対応できるように心掛けて準備しました。面接では、NHKのアナウンサーのようにはっきりと聞き取りやすく、語尾を丁寧に受け答えすることに努めました。就活後半になると面接に自信が持てるようになりました。自分自身を客観的に見てください。なぜ、自分は受からないのか、受かった人と何が違うのかを考え、自分の弱点・長所を認識してみてください。また、自己分析もしてみてください。他人に自分を分析してもらうことで、より自分を分かるはずですが、無理に、企業の求める人物像になる必要はありませんが、かけ離れてはだめです。
12. 就活中は、不測の事態に備え、早めの対応・確認を心掛けてください。試験問題の解き方・面接のやり方など先輩やキャリアカウンセラーなど就活のプロを頼ってください。友人は、就活の情報を知り得る仲間であり、ライバルです。自らの希望の進路に進めるようにあらゆるつてを使い、準備を怠らず就活をやりきってください。

1. 門脇圭祐

2. 大阪モノレールサービス株式会社

3. 鉄道業

4. 総合職（フロアアテンダント）

※大阪モノレールでは、駅係員をフロアアテンダントと呼びます。

5. 鉄道業に就きたかったため、鉄道会社を中心にそのグループ会社、旅行会社、航空会社を見ていました。地元ではなく、自分の好きな場所（大阪）で働きたいと思っていました。

6. ・5月中旬 会社説明会（参加していません）

・6月中旬 適性検査（クレペリン）、筆記試験、ES提出

・7月上旬 グループ面接(面接官5:3)

・7月中旬 個人面接(面接官3:1)

・7月下旬 事前にSPIのWEB試験を受験、個人面接(面接官3:1)、健康診断

・8月上旬 内々定

7. 幅広くいろんな会社を見るように言われていると思います。しかし、自分の性格上一度決めたことは曲げないタイプなので、就職活動が始まる前から就きたいと思っていた鉄道業やそのグループ会社、それに近い旅行、航空系に絞りました。結果、鉄道2社（大阪モノレールサービス、名古屋鉄道）・航空1社（ANA大阪空港）から内々定をいただきました。あくまでも参考に。

8. ・学生時代に頑張ったことや自己 PR
 - ・志望動機
 - ・大学で学んでいること
 - ・実際に路線や駅を利用したときの感想
 - ・面接官を友人として会社の良いところを紹介する
 - ・実家を離れることについて家族は何て言っているか
 - ・今までで一番感動したサービス
9. 筆記試験や SPI 試験対策を忘れてしまったことです。ES が通っても試験で落とされてしまうことがあります。面接回数をこなす前に第 1 希望の会社の面接がありました。他企業で面接を受けて慣れることや面接練習を行い、準備万端の状態面接に望めればよかったです。
10. 鉄道会社では珍しく、駅係員の接遇面やホスピタリティに力を入れており、定期的にマナー研修や接客研修を行っています。お客様に快適にご利用いただくだけでなく、自身の人間性の向上に繋がると考え、長く働けるのではないかと思います。入社を決意しました。駅内イベントの企画や担当を自分たちができること、駅務経験後、運転士を目指せることや広告営業、人事、経理、コンビニ業務などの業務が経験できます。沿線には伊丹空港、エキスポシティ、万博記念公園、ガンバ大阪の本拠地の吹田サッカースタジアムなどの観光地に加えて、住宅開発も行われています。年々乗降客数が増加していることや延伸計画が決まり、将来性がある点にも魅力を感じました。
11. 面接で自信のない答えのときに声が小さくなってしまいますので、どんな質問にも自信を持って受け答えができるようにしました。どんなときにも笑顔を忘れないことを意識しました。
12. 鉄道会社に入社したい人は多くいると思います。しかし、入社する方のほとんどが鉄道好きのマニアではありません。自分もその 1 人です。2 社（大阪モノレール、名古屋鉄道）の内定者懇親会に参加しましたが、話をしてみると周りは学生時代にスポーツを経験していた方ばかりでした。鉄道のマニアックな知識よりも、スポーツで培った忍耐力や精神力を生かして長い労働時間（宿泊勤務）やお客様との対応に耐えられそうな方に向いていると思います。希望の会社の面接や試験で落ちてしまうこともあると思いますが、引きずらないで切り替えをしていくことが大事だと思います。頑張ってください。

1. 長塚 保
2. 西武信用金庫
3. 金融、信用金庫
4. 総合職
5. 色々な業種と関わるから金融業を選び、その中でもコンサルティングに力を入れていて面白そうだったため。
6. 3月：説明会
4月：一次面接（個人）
5月：二次面接（個人）
6月：最終面接（集団）
7. マーケティング関係の会社の面接を受けたこと。一緒に受けた中に話が上手な人が多くて参考になった。
8. 自分の長所・短所、入ってからどんな仕事をやりたいか、他の信用金庫と比べてどのような特徴があるかなど。
9. 受ける会社についての下調べが不十分なことがあり、面接でそれを見抜かれてしまった。
10. 最終的には支店訪問をしたときの職員の雰囲気決めた。
11. 答えられなかった質問に対する回答を考えて、次では答えられるようにした。
12. 面接は経験が大事だと思うので、もし選ばれなかった時も沈まずに次に活かしてほしいと思います。

1. 増田紋加
2. 資生堂ジャパン(株)
3. 仕上用・皮膚用化粧品製造業
4. 営業（美容部員、ビューティーアドバイザー）
5. ・研修や仕事内容から「女性として」成長できるから
・自分の好きなことを仕事にしたいと思ったから
6. 3月：合同企業説明会
4月：企業説明会
5月：エントリーシート提出
6月：1次選考(グループディスカッション)・最終面接(個人面接)・内々定
7. 業界研究・自己分析・店舗見学
8. ・志望動機
・今まで頑張ったこと
・人を喜ばせたことはあるか
・どのようなビューティーアドバイザーになりたいか

9. 業界研究が足りず、他社のことを聞かれ答えられなかったこと
10. 販売チャンネルが多く、たくさんの経験ができると感じたから
11. ・不安や疑問に思ったことはその日のうちに解決する
・次に気持ちを切り替える
・反省した点は次の会社の選考で改善して思う存分発揮する
12. 入社後の自分の将来を想像しながら挑むと、強気でいけると思います。
自分が努力していることはみんなもやっていると思い、+αの努力を心がけると心に余裕が持て自信もつくと思います。あとは後悔しない選択を！

1. 矢島諒太
2. 株式会社ヤオコー
3. 小売業（スーパーマーケット）
4. 販売職（総合職）
5. 人事担当者が国士舘大学のOBで、多くの質問に対して正直に答えていただいたから。
6. ・3月の学外合同説明会にて内定先企業の説明を聞く。
・4月中旬に一次選考。
・5月中旬に二次選考。
・6月初旬に三次（最終）選考。
・6月中旬に内々定の連絡を受ける
7. ・採用担当者と名刺交換をして名前を覚えてもらうこと。
・もし、企業にOB・OGがいるならOB・OG訪問をする。
・第一希望の企業の前に面接練習を試みる。
・大学のキャリア形成支援センターを利用する。
8. ・志望動機。
・この会社に入社したらどんなことしたいか。
・5年後、10年後はどの役職で活躍したいか。
・長所と短所。
・学生時代頑張ったこと。
・同業他社との違い（強みと弱み）。
・アルバイトの有無。
9. 最初の選考参加企業の前に面接練習をせずに選考を受けることとなり、2次選考を突破することができなかった。
10. 会社での取り組みに共感する部分が多く、現場中心で物事を進めていけること。
11. 面接対策や自己分析、SPIの勉強などを行った。
12. 今後、自分が30年以上働くことになるであろう企業になるので、就職活動で後悔しないことです。興味がある企業、ない企業問わず色々な業種の話聞いてみることで、新たな発見もあると思います。精神的にめげることもありかもしれませんが腐らずに頑張ってください！！

1. 大道楓
2. タイムズ24株式会社
3. 不動産
4. 営業職
5. 仕事内容に興味を持ったから。
6. 4/26 1次選考：グループワーク
5/13 2次選考：個人面接
5/17 3次選考：個人面接（1対2：人事+支店長）
6/13 最終選考：グループ面接（4対2：社長+人事部長）
7. 企業研究と自己分析
8. 志望理由、長所や短所、自分を動物に例えると何か
9. 就活が始まった頃SPI対策ができていなかったため、選考で悔しい思いをした。
10. 会社の雰囲気、企業と業界の成長性。また、自分の興味ある仕事内容だったこと。
11. 選考の度に就活ノートを書き、自分の言ったことを振り返る。
12. SPI対策は必ずやりましょう！！諦めずに自分を信じて頑張ってください。

1. 北島歩史也
2. 積水ハウス株式会社
3. 建設業／不動産業
4. 総合職（営業）

5. きっかけは、両親が同じ職種に従事しており、幼少の頃から住宅業界が身近にあったため。
6. 2015年6月 インターンシップエントリー
2015年10月 第1回インターンシップ
2015年1月 第2回インターンシップ
2015年3月～6月 選考
ES(エントリーシート)提出
webテスト
面接(個人)
筆記試験(GAB式)
面接(個人)
最終面接(個人)
内々定
7. 早めの情報収集、インターンシップ、webテストや筆記テストの勉強など。
8. ・長所、短所
・学生時代に頑張ったこと
・なぜ当社なのか
・あなたにとっての「すまいづくり」とは?
・営業職は正直なところ、とても大変な職種だが、どう思っているか。
9. 私の場合、特にありませんでした。「誰よりも早く動きだそう」という気持ちがあったため、2年生の秋期から業界・企業研究や情報収集を行い、常に先手をとるようにしていました。強いて言えば、選考が始まってからの期間は、毎日が不安との戦いだったので、不眠症になってしまい、体重が10kgほど落ちました。
10. 住宅(戸建)メーカー業界第1位であることに加え、それに恥じることのないグループ内企業内の連携や確かな品質など。
11. 縁がなかったときっぱり割りきること。
12. 大変ですが、誰しもが通る道です。先手先手で他者よりもリードするべし。自分の強みや自分らしさなどを見直す機会でもありますので、とても今後の人生の糧になります! 18年入社の皆さん、頑張れ!!

1. 菅原孝太
2. 茅ヶ崎市役所
3. 地方公務員
4. 事務職
5. できる限り安定している職業に就きたいと思っていたからです。
6. 5月 一次試験(事前に与えられた課題等のエントリーシート記入)
6月 二次試験(集団面接、適性検査)
7月上旬 三次試験(個人面接)
7月下旬 四次試験(個人面接)
7. 興味がある企業や自治体について事前に調べることで、それに関連するニュースを見ておくことなどです。
8. 志望動機、興味のあるニュース、大学では何を学んでいるのか、学生生活(部活動や学業)で得られたことは何かなど
9. 面接で質問されたことについて答える際に、上手く言葉がまとまらず長く話しすぎてしまったりすることがありました。
10. 公務員試験だけでなく民間企業も並行して受けていたのですが、なかなか内定をもらうことができない中で受かったのが茅ヶ崎市役所だったからです。
11. 特に工夫などはしませんでした。次の面接に向けて気持ちをリセットしていました。
12. 不安なことも多いと思いますが、一般企業であるならその企業やそこに関連する事柄について、公務員であるならその自治体についての下調べや筆記試験へ向けての準備等、やるべきことをしっかりやり、自分がやってきたことに自信を持って就職活動に臨めば必ず結果はついてくると思います。時には息抜きしながら、自分なりに頑張ってください。

1. 馬場 康平
2. 警視庁⇒警察官I類(大学卒業程度)
3. 地方公務員
4. 公安職
5. 自分が民間企業に勤めているイメージが全くできなかったため、将来どうしようかなあと考えていた時期に、偶然大学で警察官の説明会が開かれていたので参加した。そこで現役の警察官の話聞き、「この仕事ならできるかもしれない、やってみたい」と感じたから。
6. 5月上旬:1次試験(筆記試験⇒漢字・教養・論文)
5月下旬:2次試験(面接、体力テストなど)
8月下旬:内定

7. 情報収集（警察について）、読書、勉強（1次試験対策）
8. ・動機 ・なぜ警視庁なのか ・大学で何を勉強しているのか（主に卒業論文について）
・部活 ・長所、短所 ・時事問題（待機児童について） ・併願先について
9. 試験会場に早く着きすぎて疲れてしまったこと。
10. 千葉県警察からも内定が出ていたが、東京で働きたかったため警視庁に決めた。
11. なし
12. 不採用⇒情報不足、実力不足、慢心・・・つまり「準備不足」が原因であることが多いと思う。
最大限の準備をして本番（試験や面接）に望めば、良い結果（内定）が出やすくなると思う。
公務員は基本的に学歴や学部などは関係ない（少なくとも警察に関しては）ため、当日の出来で合否が決まる。そのため実力が発揮できるように準備することが大切。

【2016年度における教員の研究活動】

長谷川 均 教授

論文：

- ・東郷正美・長谷川 均・後藤智哉・石山達也・今泉俊文・松本健（2016）：「デカポリス” ガダラ” は、本当に749年パレスティナ大地震で壊滅したか。文化遺産学研究，No.9，pp.39-50.
- ・長谷川 均（2016）：米占領下の石垣島におけるヘレン・フォスターの地質調査—フィールド・アシスタント山里節子さんに聞く—。地理，61-5，pp.52-59，口絵 pp.1-9.
- ・渡久地 健・藤田嘉久・中井達郎・長谷川 均・高橋そよ（2016）：礁前面の凹地「カマタ」の漁場としての生物地形学的評価。沖縄地理，第16号，pp.1-18.
- ・眞部広紀・前田貴信・長嶋 豊・浦田健作・染谷 孝・久間英樹・新部一太郎・長谷川 均・岡本 渉，春山純一（2016）：ロボット探査の予備実験に関する天窓・溶岩チューブ洞窟の類似地形について。佐世保高専研究紀要，第53号，pp.14-27.

学会発表：

- ・Hironobu KAN・Masayuki NAGAO・Kazuhiko FUJITA・Hitoshi HASEGAWA・Yosuke NAKASHIMA・Nobuyuki HORI（2016）：High-resolution multibeam bathymetric mapping of barrier reef geomorphology of eastern Kume Island, the Ryukyus. Japan Geoscience Union MEETING 2016. 2016年5月23日，幕張メッセ.
- ・Hironobu KAN・Kazuhiko FUJITA・Hitoshi HASEGAWA・Masayuki NAGAO（2016）：HIGH-ENERGY WINDOW IN MODERN REEF：AN EXAMPLE FROM MULTIBEAM BATHYMETRIC MAPPING OF REEF GEOMORPHOLOGY AROUND THE RYUKYU ISLANDS. 13TH INTERNATIONAL CORAL REEF SYMPOSIUM, 2016年6月23日，ICRS HONOLULU.
- ・長谷川 均・鈴木倫太郎・鈴木智子（2016）：UAVによる高解像度画像で捉えた石垣島のサンゴ白化現象。日本サンゴ礁学会第19回大会，2016年12月3日，沖縄タイムスビル.
- ・長谷川 均・中井達郎（2017）：UAV（ドローン）を使ったサンゴ礁の空撮と応用—奄美大島・喜界島などを例に—。「浅海底フロンティア研究センター」キックオフミーティング科研費研究集会，2017年1月22日，九州大学伊都キャンパス.

その他（テレビ出演）：

- ・サンゴ白化 全体像を把握せよ！NHK 沖縄放送局，2016年9月29日放映.

学会活動：

- ・日本地理学会理事
- ・日本地理学会資格専門委員会（委員長）
- ・日本地図学会評議員
- ・千葉大学環境リモートセンシング研究センター拠点運営委員会委員

岡島 建 教授

学会活動：

- ・歴史地理学会 評議員，常任委員（庶務委員長）

内田 順文 教授

その他（講演）：

- ・内田 順文（2016）：ハケの道を歩く．三鷹市市民大学事業『武蔵野の意味を探る会』，2016年11月26日，三鷹市社会教育会館．

磯谷 達宏 教授

論文：

- ・磯谷達宏（2017）：ヨルダンの森林植生概観－‘Vegetation of Jordan’に記載された情報を中心に－．国土館大学地理学報告，No.25，pp.1-16.

学会発表：

- ・比嘉基紀・吉田圭一郎・武生雅明・磯谷達宏（2017）：函南原生林における10年間の林分構造の変化．日本生態学会第64回全国大会，2017年3月16日，早稲田大学．

学会活動：

- ・植生学会運営委員
- ・「生態環境研究」編集委員（財団法人地球環境戦略機関国際生態学センター）

その他（委嘱業務）：

- ・神奈川県川崎市 生田緑地 自然環境保全管理会議 会長
- ・東京都世田谷区（仮称）世田谷区生物多様性地域戦略 環境審議会 検討部会 委員

その他（講演）：

- ・磯谷達宏（2016）：生田緑地の地形環境と生物多様性保全（生田緑地における生物多様性保全のための植生管理を考える（その2）－とくに地形条件に着目して－）．川崎市生田緑地平成28年度第2回自然環境保全管理会議．2016年9月12日，生田緑地東口ビジターセンター．

加藤 幸治 教授

論文：

- ・加藤幸治（2017）：サービス経済地理学における「時間」考慮の必然性．経済地理学年報，63-1，pp.23-42.
- ・加藤和暢・加藤幸治・楢塚賢太郎（2017）：これからサービス経済化の研究に取り組もうとする院生・学生のための文献案内．経済地理学年報，63-1，pp.77-88.

学会発表：

- ・加藤幸治（2016）：スイスにおける産業の「棲み分け」．国土館大学地理学会，2016年6月6日，国土館大学．
- ・加藤幸治（2017）：スイス経済の地域構造－第三次産業を中心に－．日本地理学会 2017年春季学術大会 産業経済の地理学研究グループ，2017年3月29日，筑波大学．

学会活動：

- ・経済地理学会 評議員，常任幹事（代表幹事）
- ・地理科学学会 評議員

その他：

- ・東京大学大学院総合文化研究科 博士論文審査会 審査委員（2017年1月）

宮地 忠幸 准教授

論文：

- ・小田宏信・卜部勝彦・竹内裕一・宮地忠幸（2016）：経済地理学から地理教育への貢献．経済地理学年報，62-3，pp.257-266.

その他：

- ・宮地忠幸（2017）：市民とともに歩む都市農業の新展開—東京都の場合—。地図中心，532，pp.18-21.
- ・宮地忠幸（2017）：流域で考える環境（都市生活と環境問題）。公益財団法人 東京観光財団編：『江戸東京まち歩きブック—東京シティガイド検定公式テキスト—』中央経済社，pp.120-122.
- ・宮地忠幸（2017）：第一次産業・グリーンツーリズム。公益財団法人 東京観光財団編：『江戸東京まち歩きブック—東京シティガイド検定公式テキスト—』中央経済社，pp.174-179.

学会発表：

- ・宮地忠幸・志村 衛・上原悠輔（2016）：減反政策転換期における飼料用米生産の動向とその地域的意義—栃木県大田原市を事例として—。日本地理経済学会関東支部研究会，2016年10月16日，駒澤大学.
- ・宮地忠幸（2016）：コメント。経済地理学会地域大会シンポジウム「中山間地域における農林業再生」，2016年10月22日，奈良女子大学.
- ・宮地忠幸・志村 衛・上原悠輔（2016）：栃木県における飼料用米生産の展開とその持続性。人文地理学会大会，2016年11月13日，京都大学.

学会活動：

- ・経済地理学会 評議員，常任幹事（総務委員長）
- ・日本地理学会 代議員，資格専門委員
- ・日本地理教育学会 集会委員
- ・歴史地理学会 集会委員

その他（委嘱業務）：

- ・全国商工会連合会 小規模事業者新事業全国展開支援事業予備審査委員
- ・東京シティガイド検定 公式テキスト作成分科会委員
- ・日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会 認証判定委員